

■権代敦彦：作曲 Atsuhiko GONDAI



日本の若い世代を代表する作曲家。1965年東京生まれ。桐朋学園高・大で作曲を学んだのち、DAAD奨学生としてフライブルク音楽大学に留学。その後フランスIRCAM研究員としてコンピュータ音楽を研究する。作曲を末吉保雄、クラウス・フーパー、サルバトーレ・ジャリーノに、コンピュータ音楽をフィリップ・マヌリに、オルガンをジグモント・サットマリーに師事。ローマのブッキ国際作曲コンクール第1位、ワルシャワのセロツキ記念国際作曲家コンペティション第2位、をはじめ、アムステルダムのカウデアムス国際音楽週間やISCM世界音楽の日々での入選、芸術選奨文部科学大臣新人賞など、国内外で数多くの賞を受賞。カトリック信仰に基づく儀式としての音楽空間を探求し、近年は仏僧、声明家との

コラボレーションを通じて、仏教音楽との交流から新たな領域を開拓している。コンサート・プロデューサーとしても意欲的な活動をおこなっている。1995年から5年間、渋谷ジャンジャンで、シリーズ「東京20世紀末音楽集団→2001」、1997年から99年まで神奈川県立音楽堂で「権代敦彦シリーズ・21世紀への音楽」を企画制作。1995年及び99年には、東京カテドラルで自らの個展をプロデュースした。2004年には大阪ザ・シンフォニーホールで初めての個展「トランス・ミュージック」が催された。ノイズ・ミュージックのメルツバウ、ダンサー・振付家の金森譲をはじめ、映像作家、建築家とのコラボレーションも多い。2000年、ニュージーランドのウェリントン・ヴィクトリア大学、オークランド大学で講義を行う。2003年、アーティスト・イン・レジデンスとしてノルウェーのベルゲンに滞在、ベルゲン大学グreekアカデミーで講義を行う。2004年4月よりオーケストラ・アンサンブル金沢のコンポーザー・イン・レジデンス。現在、金沢とパリを拠点に作曲活動を展開している。受洗以来、初台教会オルガニストをつとめている。

■保田紀子：オルガン Noriko YASUDA



東京藝術大学楽理科、オルガン科卒業及び大学院修了。1980年ドイツ政府給費留学生(DAAD)として渡独。フライブルク国立音楽大学卒業。17世紀前半から現代音楽に至る幅広いレパートリーを持つ。1985年ドイツ・ジンツィヒにおける現代音楽週間に招かれて好評を博し、以後、シリーズで現代音楽のリサイタルを開催している。1999年12月から2000年1月にかけての「サイトウ・キネン・フェスティバル松本 冬の公演」、2002年「サイトウ・キネン・フェスティバル」に出演。松本市音楽文化ホールオルガニスト、日本オルガニスト協会会員、日本オルガン研究会会長。

■曾我部清典：トランペット Kiyonori SOKABE



東京藝術大学卒業。現代音楽のスペシャリストとして内外の新作の初演に携わる一方、上野の森ブラスのコンサートマスターとして古典からポップスまで広いレパートリーを持つ。

ここ数年は、ヨーロッパ主要都市でソロリサイタルを開催。ヴァルヴとピストンを併せ持つオリジナル楽器「ゼフェロス」を開発するなど、新しい領域を探求し続けている。ALMレーベルより4枚のCDをリリース。日本トランペット協会常任理事。洗足学園音楽大学非常勤講師。BrassExtremeTokyo、コンテンポラリーα、双子座三重奏団メンバー。
<http://www.jade.dti.ne.jp/~ebakos/>